

杉集成管柱を本格採用

国産材時代の幕開けへ

ポラテック

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）のプレカット事業は、7月から杉集成管柱の本格的な採用を決めた。6カ月契約で1万立方メートルを4社と契約、これは同社プレカットの約2割に相当する。「国産材は安定供給、安定価格に課題があったが、大手複数が杉集成管柱の生産を始め安定供給が可能になった。価格的にもメリットがある。いよいよ国産材時代の幕開けを感じる」と北大路康信専務は話している。

同社はプレカットの62坪、羽柄材は5万1千坪（これまでは羽柄材から集計方法を変更し最大手で6月度の構造2113坪、合板加工10合板加工を羽柄材加た）。5月度と比べ構材加工実績は9万4千5百坪は4万2千7百69坪だ。工としてきたが、今月造材で1万1千7百22坪

加工実績が増え、非住宅比率も8・1%と過去最高になった。外販受注2969棟、外販売り上げ2748棟と、いずれも高水準で夏場に向けてさらに受注は向上くものと見ている。

主要取引先の欧州の集成材メーカーなどは、集成管柱の調達量を減らすことを通知した。「欧州では集成梁と間柱に生産を集中するよう話した」（北大路専務）。同社で加工している主要構造材は、梁はRウッド構造用集成材、土台は米松KD防腐・防蟻処理材。間柱は現状はWウッドが中心だが、柱が杉に変わることでも検討している。

杉集成管柱（4プライ）の生産に大手が複数社参入し、国産材の課題だった安定供給・価格が可能になり、価格的にも競争力があることから、同社は7月から、6カ月契約で1万立方メートルの購入を決め